

カポジ併発のステロイド抵抗性になった最重症アトピー性皮膚炎

35歳 男性 入院期間 2014/2/19～2014/5/19

学童期には肘関節に皮膚炎が生じたが、15歳までで自然消退。24歳で手指に湿疹が生じるようになり、近医通院しステロイド外用を使用し始めた。

その後、改善悪化を繰り返しながら範囲は腕から肩、背部、腹部、両下肢、顔へと次第に拡大。ステロイドもアルメタ→アンテベート→顔プロトピック+頭皮デルモベートローションに増強されたが、アトピー性皮膚炎は10年間で全身に拡大した。2013年12月から下肢のしびれや浮腫、冷えを感じるようになった。

2014年1月から下肢の浮腫から滲出液が生じるようになった。浮腫の悪化と膝の皮膚の苔癬化で下肢は硬直化し、痛みで歩く事も苦痛になってきた。

滲出液が増加し、下肢に包帯をしても垂れるようになった。通院していた病院からは入院してのステロイド内服を勧められたが、ステロイド治療に限界を感じ、当院のHPを知り入院を申し込んだ。入院予定日を前に、顔を中心にカポジ（ヘルペスウィルスの感染）が生じ、急きょ2月19日当院入院。

入院直後は抗ウイルス薬の点滴療法を行いながらBSCを開始。ステロイド、プロトピックは全く使用せず療養を行った。

10年間のステロイド治療のリバウンドもあったが、確実に最重症のアトピー性皮膚炎は改善し、薬剤はほとんど必要がなくなった。

ステロイドやプロトピックでコントロールできない最重症のアトピーの患者さんですが、皮膚炎のマーカーであるTARCは3ヶ月で18733→1235まで低下した。

POEMは4まで低下し、自覚症状も大きく改善した。本来の自然環境に戻ればステロイドに頼る必要はない。

一般ステロイド治療での10年を3ヶ月で取り戻している。

	基準値範囲	2014/2/19	2014/3/19	2014/4/19	2014/5/12
TARC	450以下	18733	15532 ↓	2519 ↓	1235 ↓
LDH	120～245	614	545 ↓	267 ↓	248 ↓
IgE	170以下	2090	1952	1821	2008
好酸球	7%以下	17.6	26.0	14.6	17.4
POEM (自覚症)	最重症 20～28	*	27	20 ↓	4 ↓

2014/2/20



2014/5/12

